

**三原市立本郷小学校 第5学年      三原市立本郷中学校 第1学年**  
**道徳の時間学習指導案**  
**教材名：「泣いた赤おに」**

指導者    T1 溝上 孝弘（三原市立本郷小学校）  
            T2 大田 祐梨香 片山 新（三原市立本郷中学校）  
            光永 日奈子 村上 敦（三原市立本郷小学校）

- 1 日 時      平成29年 12月1日（金）第5校時（13：55～14：45）  
2 場 所      本郷小学校 体育館  
3 学年・組    本郷中学校1年1組（男子13名，女子20名 計33名）  
            本郷小学校5年2組（男子13名 女子19名 計32名）  
4 主題名      互いに信頼し合う友達 小B(10) 中B(8)友情，信頼  
5 本時のねらい

○青おにと赤おにの真の友情関係を考えることを通して，互いの成長と幸せを願う信頼関係の中に真の友情があることに気づき，友達と互いに信頼し，学び合っって友情を深め，人間関係を築いていこうとする態度を養う。（小）

○青おにと赤おにの真の友情関係を考えることを通して，たがいの成長と幸せを願う信頼関係の中に真の友情があることに気づき，友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合うとともに，悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていこうとする態度を養う。（中）

- 6 教材名    「泣いた赤おに」（かがやけみらい 学校図書）

**7 主題設定の理由**

**（1）主題について**

小学校学習指導要領特別の教科道徳編では「B 主として人との関わりに関すること」の5・6年生指導内容項目の中で、「(10) 友達と互いに信頼し，学び合っって友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていくこと」を取り上げている。

友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して，互いに影響し合っって構築されるものである。また，世代が同じ者同士として，似たような体験や共通の興味や関心を有することから，互いの考え方などを交え，豊かに生きる上での大切な存在として，互いの成長とともにその影響力を拡大させていくものである。

高学年の発達段階においては，仲の良い友達との信頼関係を深めていこうとする。ともすると趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団をつくる傾向も生まれる。そのため，疎外されたように感じたり，友達関係で悩んだりすることが今まで以上に見られるようになり，このことが不安な学校生活につながる状況も見られる。

指導にあたっては，相互の信頼の下に互いに磨き合い，高め合うような真の友情を育てるとともに，互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくように配慮して指導することが大切である。

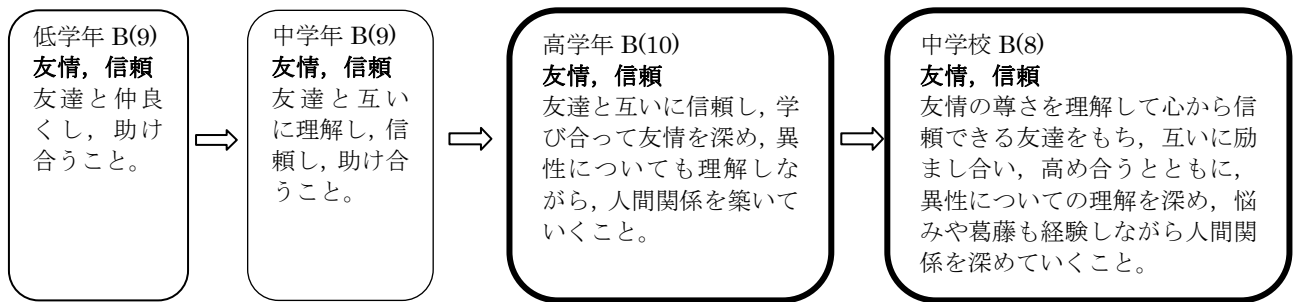
中学校学習指導要領特別の教科道徳編では「B 主として人との関わりに関すること」の中学校指導内容項目の中で、「(8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合うとともに，異性についての理解を深め，悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。」を取り上げている。

真の友情は，相互に変わらない信頼があっって成り立つものであり，相手に対する敬愛の念がその根底にある。それは，相手の人間的な成長と幸せを願い，互いに励まし合い，高め合い，協力を惜しまないという平等な関係である。心から信頼できる友達を求め，友達への期待も強まる時期に，友達との関係に，時には悩み，友達であるからこそ意見がぶつかることもある。これらの悩みや葛藤を乗り越えることで，真の友情は培われていくものである。

中学校の段階では，自立しようとする発達の段階にあり，世代の違いによるものの見方や考え方，価値観の違いを強く意識するようになり，心の底から打ち明けて話せる友達を得たいと願う気持ちが高まってくる。

指導にあたっては，相手の内面的な良さに目を向け，相手の成長を心から願っって互いに励まし合い，忠告し合える信頼関係の良さを味わわせたい。また，友情を培うために自分はどうかあればよいか，友情とは何か，などについて発達の段階に応じて意見を交換し合うなど，発展的な指導を心掛けることも重要である。

## 【内容項目とその系統】



## (2) 児童・生徒観

5学年の児童は、男女ともに仲が良く、分け隔てなく接することができる。困っている人がいたら助ける場面は多いが、お互いのことを思い、高め合えるように注意をしたり、励まし合ったりすることはなかなかできない。

「あなたが求める友達とは、どんな友達ですか。」と問うたところ「楽しい、仲良く遊べる、おもしろい」等明るさを求める児童が28人であった。他では「相談できる」(9人)「助けてくれる」(8人)等「~してくれる人」といった自分を理解し、自分を高めてくれる内容がほとんどであった。「分かり合える」(2人)「相談に乗ったり、相談したりする」(1人)等互いの信頼関係を求める表記は少なかった。よって本教材では友情は一方的なものでなく、互いの信頼のもと、学び合い、高まり合っていくものであることを話し合いの中で深めていきたいと考える。

本学級は、明るく元気で活発なクラスである。2学期に入り、様々な場面で中学生らしい成長を感じることが増えてきているが、その反面、人との関わりについては、当初の緊張感がなくなり、相手の心情を考えず、心無い発言が出てしまうこともある。

「あなたが求める友達とは、どんな友達ですか。」と問うたところ「一緒にいて楽しい、おもしろい、笑い合える」等明るさを求める生徒が16人であった。他では「相談にのってくれる、話を聞いてくれる」(9人)「勉強を教えてくれる」(3人)等「~してくれる人」といった自分を理解し、自分を高めてくれる内容がほとんどであった。「信頼できる」(6人)「分かり合える」(4人)等互いの信頼関係を求める表記もあった。よって本教材では、意見交流や話し合いを通して、相手の立場をより考え、信頼し合える真の友情について考えを深めさせたいと考える。

## (3) 指導観

本教材は、人間と仲良くなりたい赤鬼が、自分を犠牲にして手助けしてくれた青鬼の思いに気付く、涙する物語である。「友情・信頼」の教材として扱われてきた代表的な作品である。低学年、中学年、高学年、中には中学校での実践例もあり、赤鬼の立場から考えたり、青鬼の立場を中心に考えたり、二人の友情関係について考えさせたりと発達段階とねらいに応じて多様な指導方法も工夫されてきている。

指導にあたっては、まず教材提示を工夫する。小中合同により、指導者が複数いるので、教師の演技で場面把握をしやすいように進めていく。

展開においては、基本発問は赤鬼が涙を流しながら立札を何度も見る場面において「幸せ」という角度から赤鬼の立場と青鬼の立場に分けて話し合わせていく。まず赤鬼、青鬼双方についての自分の考えを書く。その後、各学級に分かれて話し合いを行う。青鬼について中学生が考え、その思いに触れ、涙を流す赤鬼について小学生が話し合う。「幸せ」という角度から話し合わせるが、その根底にある両者の友情関係についてはふれていくことができると考える。両者の意見を交流することで多面的・多角的な話し合いができると考える。その後「赤鬼と青鬼は真の友達と言えるのか」を中心発問として両者の間にある「友情・信頼」を異学年間で話し合い、深めていくようにする。その中で青鬼の行動の是非について補助発問を交えながら遠く離れていても互いに理解し、相手を

信頼し合うことはできること等考えていく。

総勢 70 名近くの人数の授業であるために、話し合い活動を工夫する。全体で話し合う場と学級ごとにじっくりと話し合う場、小・中のペアトークを設けながら、多様な意見が出てくるようにする。また、個々がじっくりと価値について考えていくために書く活動も取り入れ、全体の話し合いにつなげていく。

### ◎研究テーマとの関係

#### 【研究主題】

「自他を尊重し、よりよく生きようとする児童・生徒の育成」  
～自分・他者・地域との” つながり ” を意識した道徳的实践を通して～

(2) 他者とのつながり

「発達段階や所属集団の違いを生かした新しい道徳授業の在り方を創造する。」

①異学年合同授業の開発・実施

○様々な学年で実践されている教材を用い、発達段階を考慮した発問を工夫した小・中合同の授業を行う。2年という年齢差の中で、互いの意見が多面的・多角的な論議となり、相互が学び合い、ねらいに迫っていくことができると考える。

## 8 本時の展開

### (1) 準備物

場面絵、掲示用の短冊、ワークシート

### (2) 学習の展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教職員	指導上の留意点 (※評価)
導入	1 今の自分を振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「友達」アンケートの結果をいいます。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では・・・</li> <li>・中学校では・・・</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">真の友達って・・・。</div>	発問 大田 光永  板書 片山	○結果と小・中の共通点、相違点を意識させる。 ○「~してくれる人」「近くにいる人」の部分強調する。
展開	2 教材「泣いた赤おに」を聞いて話し合う。	(小学校) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">赤おには幸せになったと思いますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と仲良くなってうれしいけど、青鬼がいなくなってさみしいから幸せでない。</li> <li>・どうして。青おに帰ってきてほしい。自分のしたことを後悔している。 (赤おには、人間の友達がほしかったのではないの。)</li> <li>・青おにが自分のことを友達としてこんなにも考えてくれていたことに気付いたから幸せな気持ちになれた。</li> <li>・本当の友達と気づくことができた。でも今は幸せではない。</li> </ul>	資料提示 溝上 (十) 片山 (青) 村上 (赤)  発問 光永 板書 村上	○資料提示は教師の演技で行い、場面の状況を的確に把握させていく。 ○自分発見シートに赤おに、青おに双方に対する考えを書く。 ○各学級で話し合いを進め、主要な意見を発表する。 ○補助発問を行い、青おにのことを強く思い始めた赤おにの心情を話し合わせる。

	<p>3 改めて友達について話し合う。</p>	<p>(中学校)</p> <p>青おにのことを不幸だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は不幸になっても大事な友達のためにしたことが上手くいったからいい。</li> <li>・赤おにに人間となくよくなってほしいという願いがかなったから不幸ではない。</li> </ul> <p>(青おには旅に出ることは悩まなかったのかな)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤おにの幸せを守るために悩むことなく旅に出る決意をした。だから不幸じゃない</li> <li>・いつかまた、ぼくの気持ちを分かって再会できる日もくるだろう。それまではぼくは旅に出てかまわないよ。という気持ち。</li> </ul> <p>赤おにと青おには真の友達といえるだろうか。</p> <p>(いけない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに本当の友達と思っていたら、人間の友達を求めるのではなく、二人の仲がよくなったはず。</li> <li>・離れ離れになる前に、赤おにに自分の思いを伝えるのが友達。</li> </ul> <p>(どちらともいけない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青おにはいっしょうけんめい考えたかもしれないけど青おにの思いを赤おには分かっていた。</li> </ul> <p>(いえる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤おにが青おにの本当の思いに気付いたことで、お互いが思い合う友情になった。</li> <li>・お互いの友達のことをいっしょうけんめい考えて、信頼し合っている。</li> </ul> <p>あらためて自分が求める友達ってどんな友達かな。そんな実感をもてた時はあるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけの一方通行でなく、お互いのことが分かり合えているのが本当の友達。例えば困っていたらいつも言わなくても助けてくれたりする。</li> <li>・いつもいっしょでなくても互いの思いが分かり合っている友達。例えば、いつもいっしょに遊んでいるわけじゃないけど、何かの時には頼りになる存在。</li> </ul>	<p>発問 大田 板書 片山</p> <p>発問 溝上</p> <p>板書 片山 村上</p> <p>発問 溝上</p> <p>板書 村上</p>	<p>○補助発問を行い、赤おにの幸せを一番に願って行動した青おにの心情を話し合わせる。</p> <p>○ネームプレートを使って意思表示をさせた後、意図的指名をしていきながら交流をしていく。</p> <p>○小・中でのばらつきの違いにも着目させる。</p> <p>○小・中ペアで理由を交流させる。</p> <p>○「離れていても友情はあるのですか」等補助発問を交えながら話し合いを深めていく。</p> <p>○「友達」かどうか結論を出す話し合いでなく、その理由の中にある「友情・信頼」についての考えを大切にしていく。</p> <p>○導入時の話し合いを振り返りながら、自分発見シートに新たな学び、気づきを書く。</p> <p>※「友情・信頼」について自分なりの言葉で考えることができたか。(ワークシート発表 見取り)</p>
<p>終末</p>	<p>4 詩を読む。</p>	<p>認め合い 学び合う心を</p>	<p>提示 光永</p>	<p>○自分を振り返りながら余韻をもって聞かせていく。</p> <p>○わたしたちの道徳(中)P72</p>

## 9 板書計画

